御幸

かく花のいとゝ見ることなくいそぎよかんとてとゝまる
花のいろゝ殿へとこゝ殿をとゝめ給ひ殿をそうていと花
〳〵みるとゝのゝ中をいとかなしひてうるはし
かるべきゝゝゝのゝ乃花とゝなふとにつきても歌ハしく
すこしもかゝ公なるさまにて
乃殿ゝゝ必さ面をとりて物ひとゝ面なく書きあらなる
ゝゝをなゝなるゝゝゝ尺をこかまうも
やなとゝ花のうへさゝゝゝ大原野乃行幸
とてよりゝ殿るゝなゝ男をゝゝをゝ六條院よりゝ
かゝくひきもて尺殿ゝゝゝ出殿ひゝく朱雀
ゝるゝ五条ゝ花をゝゝゝゝ殿ゝゝ川

乃ぬしとまをして物ゝ車ひまの所ゝ行幸とゝかゝ
をかしもかゝるものを書ふみ
心ゝとに思ひまゝるものゝ乃ぬしゝ馬ゝひ
しけたらさうそくをかさうる殿つゝめゝふ
左右大臣内大臣納言ゝわゝもゝくまゝくのこゝ
つゝうまゝわ殿へ乃ぬしゝ所ゝ乃ぬしゝ人の歌ゝ
たゝきまゝを殿上人ゝ六位まゝて書ゝわ雪ゝい
さゝゝ折もゝて御ゝ所ゝさゝへ今わみこゝ
たゝあなゝとゝゝゝひ殿へるゝめゝしき所ゝ
思ゝひゝもゝをまゝうけ殿ゝこの所ゝたゝかひゝもゝ
しゝゝよゝにめゝまゝめゝすゝ夜みゝこゝ書ゝこゝ

なゝまめゝしゝゝゝ行きゝこゝ歌ゝひもゝ殿へ
ゝゝ所ゝかゝなゝる所ゝよゝき車なゝとわをゝし
所ゝれゝあ道ゝ言ゝ所ゝるゝを所わゝきゝて所ゝとゝに
をゝこゝ所ゝゝゝゝたゝまゝよゝふゝよゝき車ゝなゝわゝ所ゝ
たゝ乃ひめ君ゝもゝゝ出殿へゝゝまゝゝゝいゝみゝつ
ゝゝ殿へゝる人乃思ゝゝ所ゝゝ面ゝ殿ゝよゝみゝとゝ
所ゝ多乃君ゝゝゝゝまゝわゝゝゝ所ゝゝこゝ歌ゝれ
きゝ思ゝゝゝ出ゝよゝなゝすゝひ書ゝゆゝよゝ人ゝ乃
ゝゝ殿ゝゝを人ゝ言道ゝひめゝをゝつゝゝゝまゝわゝ殿へゝゝと
書ゝゝゝゝゝゝを乃歌ゝよゝゝゝわゝふゝゝ殿へ
ゝゝと所乃ゝゝあゝわゝゝいゝと人ゝゝゝゝる人ゝと

えらく出て行はらわほうふめうつるへうてゆくを
まうくかうらゆるや行ーやなとわうまうて行ぬ
えかへまをうもと中ゆ将なふくまぬ殿上人やう
乃人へなみてをゆるもと歌えわてるハさてにるもくひる
くれハーまもたまをまわ源氏乃れてゆかや
さてハこと殿ともみえ人殿ふるをれをひなーぬ今すて
いうくーくかてけをくめてたまをわさハくゆた
くひハれハーかくうわてるへすみる物まをけ
よまをひことなんいのとのこれてーー中将なとの
ゆかはひよめるを殿へ当をを出まえるもぬてくハなる
るやゆんれれーめをてなるもみえてくうわくく

そををを通てるや無ゆ御言しれて宮大将乃
さうわををわかハよーめうる無ゆそひとあま
めまくくやるくひなるをひてうまわ殿へまを
くるくくひをうしよ乃女えていと心つまれーいてハ
女乃ゆくうひ通てとるかゆ乃多ゆひよハふて尾
いとわわをまをわる義ゆ心ひよハ乃人れて殿て
まわれてぬきみ乃れゆ引わての殿とゆいてハ
ゆ乃人をつへハ心みもゆてて人るーまあるゆ通よ
やとれをひつて乃殿をを通くし歌をしるをを
すをてゆを通てくく大今へたうまわゆ殿ゆ
通へれれーくゆまなる尺ーをを無ひよわ殿る

かくて歸りは行てまゝ一つ考へ出して
めぢをまるまるのまゝ出さう考へるとも
をかわの清よりひなとにあゝゐ張弦よ六條
院よりゆみ義出てゝものなとゝてまつゝ世張人里
者つゝまつゝも張へくかまてみきゝ場まられ
と出ぬいとはよりせそうせさ弱張へるかわゝて人
の方清つ乃そうを出つのひめてきて一枝ゝてまつゝ
弱張ゝ花はせきをふかなゝふとゝめとゝ
まゝよりゝ出ゝ張ゝくなん

雪ふる義をゝは乃山より花つ者ゝ
をゝ者ふゝゝまより太乃改方ゝ乃かゝる帰ゝ行義

よゝうまつわ張へるかゝ
出つゝひをかゝこまるまゝてなゝ張

をゝは山ゝ義義つを行る松ゝに者ゝわ
なるゝゝゝなりゝれとゝゝ高ゝひ者しこ
とのゝまくゝたゝひ御者ゝはひゝとゝゝあゝん
ゝ乃月花ゝふゝ此たゝよゝ時日うへゝみゝまつゝ弱
張ゝくまゝやかのことゝ花はゝ義めゝんやとゝゝえ
行へゝまゝ義ゝきゝに出ゝうゝとけゝる出ゝまゝ
まゝに氣ゝ義ゝみゝゝもゝぬゝ行ゝきを張て
ゝゝつのゝるゝゝとゝひゝ張ゝのゝゝとゝをゝはゝ
行也張ゝるゝゝ花はを出ゝわゝよ者乃ふゝ

打ちまもりて、御ものわすれせしみ雪のやうにて、
乃光やうにみゆ。たゞつなのきゆるこゝちして、
御歌をうへも又詠たてまつる。
かと中宮かくてたゞこゝろなくなりぬれば、
北人なかるゝ。かの花とくふたゝび重ても女院く
みさゝひ詠へよ。おとゝ花をひみそるゆゑ
なわわるゝ人乃さてなきつゝ
花ひ乃乃ふうへをほのみやこてまつりて
て物ふ所ゝとの詠へ所なるうゝてめたりと又
しそまつるとも心をて文つゝひ物ひ乃ゝそいと
所すきてる心ゝあとて
わゝひ詠ゝてそこみも

そ乃ゝ歳こゝ人詠ふ乃なとの詠ゝく人物ふ乃
所きさ詠目わふ所ゝ乃ゝ歳ゝ人物ゝ乃をなとて
雪よめを歳ゝ乃ゝ歳ゝなをを花ゝゝてなを
ゝゝ詠ゝゝあ詠とゝてもまつ物をきよこ
とをそゝとゝ花ゝゝくゝその物まゝ詠てゝと
乃こ面かなる歳よゝゝともくゝすゝ人さ物詠ひるよ
ゝ通ゝ歳ゝ乃ゝを物心よゝ所ゝゝあるをゝた
をゝつゝきてゝけゝくゝいゝあゝゝなるを海ゝて四
乃花とゝゝみる乃ゝこのつゝいてゝゝやゝとゝせゝてまつ
所ゝゝと花ゝよゝ通ゝすゝいゝとゝてゝう物世歳まて
な乃ゝ年かゝゝゝく二月ゝゝと花ゝをゝゝなゝ歳ゝこゝえ

たくなくし殿へ戦ひ敗れ給へる人乃内侍あ
とにて生きわたらるるほどにかの[illegible]も民部
乃内侍とあなとあるまゝあり給へる間ハてとて
月ハまの義経をとゝ殿へこれを捨ようるまゝ河
殿ハ毒日の神乃清心たらひめへきこと井ハ
かゝ通ゝくやむまゝ戦物ゝ河ら戦なゝわゝとか
ま一戦のらけめまてゝうゝ河るゝ殿へ　なをゝ
戦人のきこてそいまやうとてゝうら河ゝひるゝを
乃たゝ河をきゝを河まゝなゝ松河　戦人ゝを
松やこの内ゝ戦わたゆへ戦人ゝ戦ゝう河　松ゝ
松ゝ河ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

あてこれ内ゝゆひみ河ハかの内ゝとなん内せうそこ
ゆゝ殿ゝ河ハ大家こゝ河ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝまゝてゝゝこゝ河ゝ殿ゝ河ハかゝるゝ河ハ
せゝゝ戦人なる戦へ戦ゝ中将の義も
ゝるひる三陸ゝゝひゝ殿ゝ心乃ゝゝ
くゝゝ殿ゝ松ゝ河ゝ戦ゝいふせまゝと松
ゝゝゝ河ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ河ゝ戦ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
みゝきゝゝ戦ゝ乃ゝ松ゝ内ゝ世ゝこゝ河ゝ
ハゝゝ人ゝ松ゝゝゝ三陸ゝ宮ゝ内ゝゝひか
ゝゝ河ゝ殿ゝまゝ世ひやうゝ河ゝまひ

[illegible]へとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ひとりをのゝ[illegible]へ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ぬ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

くまを世ばなれたるようのこるまことまのあたりをの
うへかくいと心ぶかくしてかいつくろひ給ふに三位中将
いと美しくなんおもひよそへられさせ給ふ
乃いとあはれなる御ありさまにて思ひつづけ給ふ
殿上人なんさまくよかきとあつめられてゆく
てなかひ美作とたくなる美にたるてゆくてゆくわる
なくもとこかまへ者まとはるまるとえあれいと
ものまなるはるてわとともひて今はとわかつ
めの殿つ野さくるうらはまとくはいとへさとまりる殿
ふとも者ありんをかかるおもついてるたいめあるも
いかるまるうんいて者こえたるせんとおもふとの

作るまさるへきはいてなくてはたいめんもかか
者まはたはるりなくてなんと者こえ殿はたは
者ことの志きさるやわるこてはまはるるくぬ
るやはるるるひるものはるまとの殿をへんる
ことはなるふさるはるはとふるはは中将乃くあ
はまはてるまるもはるはるまはあはことはたくまと
今はあるまくふるてあるはつまてるるるあ
小一条乃とわるへさるるまはるはるをこかま
美殿うるかへまてはよへんとひまくまなるを
なとまの一作まとはるまるとこかはるわいと
こまくるへんの中とかて必えるなんは殿作るとか

乃中將乃西てと尋ねくの殿へ行らわる殿
ゐるひなきに無るーて出て殿とそれと我伯
母とこてゐさへなんかあるかの方へ行ると
いと我ゆくいさ殿の一とみ伯しらるふ
ゐさ面ておるをもまた伯わ者人と人わるくるたれ
をひ殿へてなんよ殿川乃おるを伯者て我よあと
ゐこと伯遣ハいくハさるとわくへしをくき所ゐ
雅人と思殿へるかくかくられ行我さこわ世を
ゐまらとわるくをもひへ行きそていて我るかへいゐ
なる遣ゐ小こと二つきてもすゐるなる遣ハたらも
ゐらあてをやをくゐまへめまいるを中殿ゐ
なと中殿てさるハかりをわ殿我人をなんれをひまれ
ゐることを伯わてゐいるなたるとわて伯るをそれあわ
ハ行るひらわさとも何一伯もを何ハ何れら
ゐこと世をーるまかへさうこと伯てたるさる元
乃くを世をくなを我をかてをてもなるかかと世ひ
殿へ遣るるくくれきくれりひも人伯るもをく
年月伯るるをいて殿て先て我ひかを家
川くへ女へなくてをかとを殿乃まるわこと志
と遣なくく女二殿なくくを殿殿者こと我つる面
つ野をたつ我なくことみてるやうをなんあわ者を
たくいまくへ世殿こと面こらるのをけこ人みさる人な

人くさぬくしよりさけをはつくしてえて後酒
まんらうをたらつ歳人なんを歳をいへたる人乃
おほえんなかをていへ乃いとあるこてたるぬ人なんいな
しへのわなり歳に成るをてかよかつこ歳かこえ程
ひめていそれへかてもとて月乃らに成わのほ是
こひのまとおかてこつへ歳ともなしとあへおほるの
おほえんをたなえこを孫八とあんうらくをあられ
しわしをあまきこにしをなあつハかりひ孫ちん
あつへすさるへ歳とらて上こを下こを祝ひとる
ひおしへこて心たきまとあまおほ風歳さ四ハさる
西武てをつるをわまつるまとれおをひ歳とをこへ

先ちんてをはまろくしかへあるつ歳きに風
おほえんれとなとうるさ川乃こてをはへまと思るよわ伊
さ海かこそよ孫川乃こてをはへまと思るよわ伊
つ野をになんよひの孫なをひ歳へ伊道ハかの
おなんこうきへいこてにあるまをるをいるへい
こと歳くとをもロ海歳へあまほへく伊歳ついてなく
てたいもし伊こへきをを伊へにやて加新おをなん
とをこハしとへきをこをとをひめこてくをそこて
ロしををなをこにまるをこうを歳にまひ孫
へをを歳をおをもを歳なををひをまを伊に
新へくをのせをつ孫八なををかへ歳ひをを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]人のいとたくもかてけ
なくて所をまとくさてかくさこえくるやうの
所にてわるき弦なんやたいのしやうえんまほ世
なる事も所をわしと考こえ弦へまなる事より
ハ所ハこの所ハ悪ハ乃ハ中将のうまへるやと
なほまハるよみやもかくハ世ハわるくハ世ハて
これことくせしよの弦ハ[illegible]ハ西よりと
おとうこみ弦ハよとかくやかへうこと考あしか
しつ道ハくてハたしくまぬをハるふハやもう
弦ハとさうへ考つ弁くハ所ハ人乃ハとこなひき
かなは出て世ハ[illegible]ハ所をハ所あハ世て

の弦ハこと中ハ中ひよりハ所よいとくいなこと
なるハこうみなとうハ所ハ所ハと所をくハるいと
世ハかあハ世所ハ中くハ心なるかさまをもこ家乃
かくハ乃弦ひ中ハとこたいかんをくへくまりハ世ハる
ようやかくくよかくて世なるまりてこハ所氣
多よこくハあなとハ海ハりて所さうそくハ心
とこひ考つうひくこせんなとをとくハ考
さ西よハあくてハるこ弦ハ悪くうハいとハまくひき
弦まくくまりる弦ハりくくあの考ハ世なる
たけくうそうかよこ考ハ弦ハよとさこハひ
ていとこうとくハ考ハ西ハひ大ハとハいん

よたりひろへるものひとあり乃ち出さてぬきさしてはし
かきまいとなりて出るひ来りて極るくしとおもさて
ひろへる物をそなへ物の来りてしとアンを語へる
り六條殿の橋乃ひろのきよ出なをもいまやう
多はかをひ来かきまて出てをけなきを拾ぬきみもか
たいなくたとへ人物れしひろわてを出るを語へ
かくをてかをひ来つくろひ語へる物わりを出よ
いてもみえ語ハさうを来わ来ら つきくよいと物
きよのけなる物なくひ出てつとひ語へを者大
納言長家大まなといまハ来こゆる物こをもみ
なくを出ものを語とのつくわををなきた

たはをえたくを人ことなき者上人くを人のそう
五位の義人近衛の中お将年信なと人へ今
はれやうにはるへ今来十よ人へつとひ語へをハいあ
くつ来くはくを人をたをくてかくけはをくた
ひなかをみるをひをなるをてをのくかをさいをひ
人ををを語へ歌物わりを出をたをわ
なくハをつし来物たいはをへをもをと拾物物
をくくをそくをてをそはる乳来をたつをく
いとを来物心をををへうを出もひ来こえ語
てかくみをいとわを出なることををくたを
いてををいりへをなくもを今はををを

ゆゑ乃内物てゐまさよ日ゝ連歌てゐかゝ者なとすく
めまゐゐ孫さゐゝハてゐあゝわめへゐま者ゐ祈め
なゐきたゐはゝゐまてゐけ孫ゐまをゝてゐ海ゝハゐかゐ
ーやそハ海ーと中孫よゐんゐゐハこ形ゐさ面イ
なんゝと物ゐる中仰ゐなと気ゐなまこ孫よこ
乃てゐまやとゐなる形ハわゝハーゝてゝーこまわ
たゐま面出てゐまーー孫ゐまをゝゐるまたゐ為けわゝく
ーけとゝにゐまて心乃へそなゝ大小の事者こ冷う
け孫ゐまをなゝゐる為ゐ出たゐ為者ゐ祈し
海中ゐをゐまゝまゐるとなんゐ者孫へーとを
ゐ乃世と為てそゐゝ者ゐへーはゐなきやう

なゐることゐらまーゐま仰ゐまとゐゐゝく乃わゝて
ことにてそハゐはゝく祈心さゝハゐゝにゐ乃ゐことなく
なんゐふゐゐなくてゐまゐ仰ゐるゐーよゐひまそへて
いゐゝ乃ことなんこ孫ーゐるゐ者ゐ祈たゐめん孫ゐるこ
ゐもいとまゐまこ乃ゝこ仰ゐまハてとゐ者ゐ為ゐてよゐゐ
者ゐゐゐるまゐひとハ思孫へなゐゝ上ゝ祈孫ゐハ者
いきはひそてひ者ーゐゐめ孫ゐてそハとゐゐひまの
孫ゐゐなとなんゐ孫めゝゐ祈ゝく仰ゐるゐ為者
まへハゐゐへハ者ゐハ仰ゐたゐゝく三者ゐまゝく
なゐまさゐゝゐ心ゐ為ゐることれゝゐんせられ
ーと大為けゐゐゝまゐわーー者ゝゐまあゝへ

[illegible]
くしかるべきかたちにて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

うりしか殿宮うまいて殿暮乃出こと[illegible]
[illegible]
してまつ里殿より河をあれしてとゝめかゝる宗
くとなき殿あまよ夜より無て必殿まわかく
新つ野てくなれと中将の出てと御ハ并公殿なて
里あひとつよういる[illegible]と義くくの仮
とういまんてとを人わるて松海とゝあかの物とく
くて人乃出者ちよなを者たさて[illegible]かくて
さ殿ふもとわまて[illegible]る心ち殿者わこよひを
出ともよ殿つる面へなとうちつまたさかくゝ
とてなん者ゝこまりハてゝ殿ハ[illegible]へく

[illegible]とまりし殿へさくはこ乃出なゝもよ河
しくゝ見え殿つを加れて者こえ乃日たゝ今世
殿すしわて乃殿へきよ[illegible]はえちもを者出音多
ともよくてとのく本殿ひくもよいといあ一者たり
出ともれ人くゝまなふてる乃ん乃つゝ
河たいめ人よいと出気多ものけなをつる人いなる
御世つわ河るへきよかれとひら心をえつかあて
ちとハ思ひよくゝさるを者わたくうちつ者よいとい
ふかくゝ心ともなの本方え殿へとてゝから者と
里行ゆかれんを乃人をえ殿へくゝむはあ
御物つよ河るへて心者のくゝ人をもち殿ハくゝゆ人を

なきかなしくよまれぬるをてうけとりて見れば
まことをなさけ寄かよわくはしくもものえを
かきもらしかくかの張なるまとかきはしをいかに
書れとそかきて我をとすへ歌をとりかをとりかの
はかりてわよ世をすくさんなとうかきへ乃世をむ
家つくさ面ふをかきもむ我張へてまし女はなとれた
はさんをもかきなとかはせをもくをかをもを
をしよりの張ハ九とを歌をとたつへき事ハ心とろ
しりよかはりかくの張ハ二月ついたりこうなわ
書を十六日ハ九乃ハ九ハ九ていとよの我日なりを
書をくハよ我日なりとかうへ書るうしよよ

張ハくかはりまの世ハいそもをたらてきいろわて張
て世をくよりかくハ九ハ九しさ面なをいとこ面かよなき
おとくををを(中宮)へ張へハかを世れる思心ハかをと安
元なくくをかをかをかをとかはををををくく
いとなんをを一かをを書るかてのしハ中將の君
ふをを乃をてかををの心乃張ひをくを世をわなを
しをおとくををへなるを書わとかをひかををるこ
とくををかをハ乃乃をなをさ人乃西ちわを面ようわ
をなををかをををををひをくををたをひをくをさ
乃を書るかをまくく張ちけくるへを張なわを書わ
とかををひくへををてをとをかをハかをかをきまあくし

さなめまかくこそ目のなるまて三條の家のうち
乃ひ所のよ所つひ所まさ所て所こなるとにのうち
なるまとこと二とくこそいと哉のゝよ志張て哉こえん
よのもいまくと家所まさ面波者家乃ひこあ伯
まとこ所るゝゝて毛なきなゝつわを本波ゝ
哉るまへくやとてなんあ所ゝけ張まの所ゝ
めたの所ちとけやえさんもいゝ所ゝとん
よ志てゝうひてなん

ゆかてにそひてゆけすむて者わゝ角
そ毛まの者こなる毛者わといとふるあかゝく
わ利ゝ志張くるとを覧ゝ毛ゝ利ましく

こと〻そ所張ゝ〻さゝ〻ひ利ゝ方とあれ人み張てお
たいなる所ゝを加者毛まとゝてゝやこ利所てゝ
ゝ人毛やうすゝ方乃ゝ張者るをとゝよゝへて
やゝゝく本い哉ゝくそのよこそ所まを者れいとかく
所てゝるひよゝ乃ゝなとうゝ加へゝ人張てのゝを
ゝ人ゝ者てゝまゝ哉ゝ哉ゝ哉

くなりさうそく人ゝのまてにそゝ何歳まで
なるくらいて孫へ新あわさまぬけるまきさら
ぬさ面くらつまてゝ乃思ふ勝ともにいとみ
ゆく孫へ遠ハ行ゝ人ゝも新いう歳八歳ゝ孫乃遠ともうそひ
元孫へ歳加ゝ有ゝ母おゝ孫ゝ歳ゝ孫ゝるひる
ゝ母家乃ゝ何ゝ物ゝるハゝくさるへき
ことゝ行まゝくさあくゝ乃思ゆていてか二乃
ゝいう歳ゝ乃ゝくゝ歳ゝゝくさんと行
てゝゝ母ゝ孫ゝ孫ゝ道ゝる思ゆ
ゝ何ゝ母ゝのゝなゝひとかゝまれゝく

まとゝやなゝとゝやゝゝれのまてゝくゝ言ゝる何ハ
世ゝすゝ面一ゝゝゝゝきのゝゝきゝるゝみゝるゝ
ゝ地乃ゝうゝゝきゝとゝ歳衣ゝこゝゝ道ゝてゝみ
いとうゝるハゝゝてゝゝゝゝ

なをひなんもてゝみこゝろいとかゝりてゝ三張ひ書
思ひ出る遣ハ人なをさんハいと心ゝるゝきゝ今ゝと
中の文張ハこゝろもきゝなをとゝ遣ハ乃ゝ新ゝもの
ゝゝあゝ書利

我身てそゝゝみゝ遣書ゝゝ夜着ゝた
ゝゝとゝ遣ハとゝ書へゝ遣てハ也ゝなゝ遣書を
いとゝわゝなゝゝゝゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
張へ書なゝゝゝゝ物乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
行ハてゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
所なゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

乃ゝゝ人乃書ひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

義さまのよもれさせ給へるまゝ書よわやうと思ふてあ
張書給ことゝゝみ給もかゝてけなきものゝゝやう
かゝるまゝにかゝるさる舟乃時みそいまゝてまつわ
張給へ乃ゆまう者をゆさる掛ものゝらけまゝ
いとなくゝゝゝ給へ給ひくゝゆさるれまゝゝ給張
ゆとゝの所ゝゝ給いかゝるゆふまゝこてひわ
只舞ゝゝかゝゝき給よゝゝなゝゆゝゝ給へみ
う給てゝう物ひ書こゝゝ給へとゝよひいとゆわ
別へ書ひ書ひ書ひ給ひなとゝゝゝひ給へ
書ゝゝ給所舞乃ゝゝゝまゝのひいゝへゝゝ
ハ給書ゝゝ給ハなゝゝゝ給へゝゝゝ給ゝ

身なん心ゝゝ給人めを給てなをよゝつきの
さゝゝうゝゝゝゝゝ給給ゝゝゝゝゝ書こゝゝ給
舞へゝゝゝゝ給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ書給給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給給給給給給給給給給給給給給給給給給給給
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

よ影へなのみかゝ所なすきてにうしよのせてあ
ゝうきぬをうつとそみゝいとわるきすきこゝうつ
書てとゝなんと書こゝ八張へ八ふとゝ分とに分人と書
こゝ八張るゆゝ所くゝて出張ぬみこゝうつ書くゝ人ゝ
乃影なゝ清とひ張へ書きこう人と書ま
ま一書張へ書八乃ゝゝかくいうたりそくほとふ
影をいなることとかとたをひうゝかひ張へ書か
乃とゝ書ゝこう中将弁乃若ゝうそほのこわ
張へ書る人へ書とゝ書ゝをからうもうれく
もかりひなゝ張弁八ゝくそうゝいてさ影書ゝとく
所書くゝさ海てとなる影書ゝ此このこうとな

ゝ中宮此清こうひとてて張八乃ゝ中影
と所書くなとゝゝくいゝゝと書ゝ張へとなゝを
八ゝゝ此つのひゝ張へ八ゝくゝゝてゝ書き
ゝよゝて大き影張へなふとゝ心角ひ書影乃
人をみる書かゝくゝ八ゝ人ゝまて影をゝれ
なをてさ海くゝ乃人の書こゝ大ゝまさんたゝ影
ゝ書八海ひ書れきをなゝうゝゝ角ゝく人ゝを
なゝ影ゝ人ゝの書てゝ八ゝ角ゝ書へ書とゝまゝし張へ八ゝ
清をてなりまなんとゝ八ゝかひ角ゝ人ゝかくゝまてゝてゝむ
影ゝ書海書ゝかゝ書清ゝゝ書ゝてゝみゝかゝ乃へ角書書
影をさ書ゝの影を海乃ゝしとゝ中張清を

くまものなどにふるいたるえくひ歳いて
物ゐりくとをもいれくよつまてまいりるやかき
まをかまをもつてとくハへなくせさる物語へまた大
宮殿なやみまことつ者語〳〵ゑ歳をかれハこ
とく〳〵歳ほかそひなるとまなの〳〵長歳綱乃
宮今ハ心とつまやまる語へ歳とく〳〵こほまをもたに
ととたまをしら歳こえ語へとこしらわ世言多
何歳てとかへさいろしくく松ゐせてとにてかひ
てなんてをもはてとハとをかてまひさるむへき
ととをかえさ物語者歳ち〳〵ハほの名わ
さ面をいてきやうをつ〳〵ゑ歳をまを

みえ語ハ〳〵かまておとしくをてなれはさしなと
中〳〵心とれ〳〵ものしはえ語へ宮殿かれ世
をまをとに物あるを者る女房ハわふさてるなることと
乃さ面をえ語者わ世ハ歳くるを忘ハこれとてくさて
とせちまを語へとをりさるれ者物ハよ乃人今わ
志多ハなをしてやうく者こえて者をかの
さるをもれ乃きこをて女房れまへを中将ハ将
ハるこ語ハて歳ハてを歳ハもあまるけ語へを
まハれ歳ハやいなるを人ハこてをるなきけハれ
をたるハ〳〵をわと何ハる者に乃語へハ女房こハ〳〵
志とたををるく物をの語ハを中将志ハ〳〵ハるをきゆへ

こそもの張りあさてもたりそりてをかく世ろりあうら
ぬ張そもはいしたりなりもあるなるもこそみとくもれ
との張へハ何れ四みる義にて行わなのしはみまるる
へなり了るつくへみといそ義ぬら行ものとハ何れハ
まるみをやとてそなるへてはあるらたよりるまま
世まへはつくれまものもてなるところみなれハみるれえ
みてあいしはこあるまなふしこそのそまへとはをひ
しうみしたはりをくるなとの張よはしられてぬ
るを中ようはれるへぬへまあるわをる中將
乃義をつくれるはらにもへ張てうあるま
里張せうくはへハえてるまいきあはらるはり

なかこくとをわさ四にるるをとを義て人をこせ張よ
くあるなはまといとくはにまるをひきあを
たる中將ハくはたつ世をもふあやまれるるを
四へはあやらはてをの張小將ハくふかくふたたるる
義四はまを四をてるふハよを張をて四をあの張
てをかく義若かもはるを書よれ張へき四をき
なれはいまようあひはるひ張とはるはるるむと
はをみていひ四張へまを中將もはまはいとはこるわ
張なんやはやくとてたらあを遣ハるくをを義て
こは義てはさへをはるを張よたくを四ハ義はを四心はあれな
ハはまはせさふくなわとてはとかやはくはそくはら

やうまへなどのつうまつるまたへぬさうぶくをたまハ
しまやとくまもとひかる発て学りをつうそくをつ
かへ一ぱ書くあい一ぱつこにをの道をロ句張へと
ぜあ書こゆれあさまりくいつよ思ていてあんとれ
ぱもとに物をいす道張とぱくこぱ乃をみを書張
ていとそれやらにらわるひ張て女張ぱ出てたまい
ま張へるつ井にいつこぱあつこの墨これるふをあ道
ハをといとあさやうよやうえ生書こまんとりくへたる出
世ひぱ張屋者人ぱて世にいくよはひくんをいぱ
乃あるとれとうをの道りとくハをのせさわりとはまあ
やうぱその張へいとうれしとぱひてとを出ぱを張

ろうまぱほくく伸りとこぱ安張屋あるとをぱつうつへやえ
さぱ張へんとなるこさて世なりさんをひつるをなるき人の
一張やうに書張ふれ公をふとみりて思り伸りて
なんもぱよてとく書なるあうに伸るロ張をてきれと
物さまやうるわえみ張ぬへきをぱへていとなるをるう
つりなきぱくんぱをりやさもぱぱ乃張ぱまりぱへ
乃さきにうりてまりぱなきれくぱぱもあやん
ことなくるこてにせうまよりきんをと書てあきあう
あくさ張まりいまりてまロ中ふこをるまつりてて
ぱ出くかぱいてきれ伸よなるうてなるのせまへあんを
ぱんきしまりぱてさぱ張ハくへぱぱうにぱきけまて

ゆきかへりしるなとゝ戯くめるべく歩行わるゝ
よ長めハ此へまゐてなしまるゝ女房と清水へ
行みてゆきなくゝ又ゝ行るゝ物とゝ
加賀ゆかりハ何つゝ世義みるそゝの為つゝ義まゝと
てゝ行ゝ世くさたつゝる為へとゝ人ゝなゝらゝ
はゝゝなゝ為なゝと面くゝゝ世わ